

## 活動報告：ミュージックチャイルド

### 1. 「ミュージックチャイルド」について

広島文化学園大学・短期大学 子ども・子育て支援研究センターでは、平成22年度より特別な支援を要する幼児・小学生を対象とした音楽療法「ミュージックチャイルド」を、非常勤講師とともに行ってきた。23年度から「音楽療法実習Ⅰ」の実習先として、音楽学科の2年生（音楽療法士資格取得希望者）「音楽療法実習Ⅰ」履修学生が、非常勤講師の行う音楽療法セッションを見学している。また、27年度からは、音楽療法を受けたい児童を積極的に受け入れているが、その時の助手を、音楽療法資格取得希望者に任せ、本格的な学外実習施設として機能している。

「ミュージックチャイルド」の目的は、音楽をツールとし、意図的・計画的に子どもの発達を支援することである。対象児の行動の変容や発達を促進するとともに、対象児の表現力の向上により、特に保護者が子どもの変化を喜び、より望ましい親子の愛着形成が成果として見られている。

### 2. 27年度の実践報告

「ミュージックチャイルド」で行う音楽療法は、インテーク面接をはじめとする、アセスメント、目標設定、実施計画の作成、セッション、保護者とのカンファレンスの流れで実施された。27年度は、小坂靖代非常勤講師が主な担当者となり、和田玲子講師が助手を務め、対象児と関わった。また、セッションによっては、音楽療法士の資格取得希望者の中から、児童領域により熱心な学生を助手とした。

セッションの実施回数は、対象児童A君：前期5回、後期13回、対象児童Bちゃん：前期5回、後期13回、対象児童C君、後期7回である。月別の実施回数は6月4回、7月1回、8月3回、9月4回、10月6回、11月6回、12月5回、1月5回、2月2回、3月4回であった。

対象児童の年齢は、7歳2名、3歳1名、計3名のうち2名が男児、1名が女児で、それぞれの対象児が抱える問題は、肢体不自由、知的障害、発達障害等であった。

### 3. 保護者からの声

保護者のアンケートからは、対象児たちのめざましい発達や表情の変化に関する内容が多かった。また「音楽療法実習Ⅰ」の見学実習の場として、学生たちを暖かく受け入れ、音楽療法を学ぶ学生たちへ大きな理解を示してくださった。（保護者のアンケート回答・28年1月末1名・28年4月末2名）

#### 1. 音楽療法を実際に受けてみて、どのような感想を持たれましたか？

○先生方の（メインセラピスト・コセラピスト）の歌とピアノのタイミング（子どもの発信に対する）・コンビネーションが素晴らしくて、親も楽しく過ごすことができました。○もともと音楽は好きだと思っておりましたが、ミュージックチャイルドを通して、より音楽を楽しみたい、自分もやってみたいという強い意志が感じられ、今後子どもが豊かな人生を生きるための大事な活動の時間だったと思われました。（発作にも負けないという強い意志が感じられ親として感心させられればなしでした。）

○音楽や楽器を通して苦手だったことをしっかり克服しているなど感じました。

#### 2. 他の療育と違う点がありましたらご記入お願いいたします。

○手厚いスタッフでマンツーマン以上の取り組みをしていただき、子どもの細かな発信にも気を配っていただけたことがとても良かったです。

○音楽療法は体調のすぐれないとき、たとえば眠っているときにも大丈夫で、効果があるように思います。

#### 3. 音楽療法を受けられたことで普段の生活でお子様に汎化されたことがありましたか？

○以前は太鼓の大きな音が苦手でしたが、音楽療法を通して苦手（不安）より楽しいことが多く感じられ、苦手な音とかが減ったように思います。家でも多少は積極的に、興味のあるものに手を伸ばすようになったと思います。

○音楽療法を通して、自己を表出することが少し増え、私がお母様理解できることが多くなりました。

○セッションでしたことを家でもしたがるようになりました。(ラッパを吹く。バイオリンを弾く真似。太鼓をたたくなど)その結果、遊びが広がったように思います。

4. 他にお気づきの点を教えてください。

○子どものやる気がどんどん見えて、こころの成長に驚かされました。ミュージックチャイルドに参加できて、本当に良かったです。

○今後、子どもに音楽療法のような音楽でのかわりを生活の中でも積極的に取り入れていきたいと思います。

○子どもに対しての、先生方の丁寧なかかわりが、子どもの成長を促すきっかけになったと思います。

4. 指導者の立場より

ミュージックチャイルドを通しての、対象児、その保護者と関わりながら、私たち講師陣も毎回、子どもたちの持つ可能性に驚かされることの連続でした。最初は、ここは自分にとって安全な場所かどうかを見極めるために、固い表情の対象児たちが、音楽を通してどんどん心を開き、自己を表現できるようになっていく様子は、感動的で、実

は私たちが、対象児からの多くのプレゼントを頂く貴重な時間であったと思う。学校行事や対象児たちの体調などの条件から、コンスタントにセッションが展開されなかった月もあったが、体調が少し悪い中でも、セッションに足を運んでいただくと、保護者が驚かれるくらい対象児たちが積極的に講師と関わる場面もみられ、音楽の可能性を再認識することが多く見られた。今後も、ミュージックチャイルドで実施する音楽療法の実践を通して、本校が児童領域の音楽療法の拠点となるべく、幅広く展開していきたいと考える。

5. 改善点と将来構想

27年度は新たな講師体制でミュージックチャイルドが展開し始めた初年となった。セッションの組み立て方や対象児とのかかわり方など、様々な問題点を考慮しながら慎重に進め、それぞれのセッションで音楽療法の効果を実証することができたと思われる。

今後も引き続き多くの対象児と、より丁寧なセッションを展開していきたいと考えている。

(文責：学芸学部 音楽学科 和田 玲子)